無断転載禁止

令和８年１１月定例会　島 直也 議員　総括質問資料

用宗緑地リニューアル

静岡市 24年度本格着手

にぎわい創出へ

静岡市は2024年度、駿河区の用宗緑地のリニューアルに本格着手する。民間の資金やノウハウを活用する公募設置管理制度（パークPFI）により、利用者の休憩デッキや飲食店などを設置し、施設の魅力向上や周辺エリアのにぎわい創出につなげる。

用宗緑地はJR用宗駅から南東に約500㍍の用宗海岸沿いに位置する。東西に約600㍍の区間で、市民らが散歩や休憩をする空間となっている。23年には1年間で約8万3千人が来訪した一方、開設から40年近くが経過し、設備の老朽化が課題だった。



リニューアルに本格着手する用宗緑地＝静岡市駿河区

パークPFIは、民間事業者に収益施設の設置を認め、公園整備費の一部を負担してもらう制度。リニューアルでは飲食や休憩ができるデッキ、夜間でも安心して歩ける照明の設置、カフェなどの飲食店や売店の整備を想定し、24年度に事業者の参入意向調査や詳細な設計を実施する。25年度に事業者の公募と着工、26年度の供用開始を目指しているという。

市は23年度、施設の利用状況の調査や事業者へのヒアリングなどリニューアルに向けた事前調査を実施した。同年9～12月に行った利用者対象のアンケートでは、休憩所やトイレなどの改修、デッキ、夜間照明の新設を求める声が多く上がったという。

（政治部・池谷遼子）

静岡新聞

©静岡新聞社　無断複製転載を禁じます

無断転載禁止

令和８年１１月定例会　島 直也 議員　総括質問資料

海岸沿い600㍍、パークＰＦＩで活性化期待も…

用宗緑地 再整備に遅れ

静岡市が民間の資金やノウハウを活用する公募設置管理制度（パークPFI）によって進めている駿河区の用宗緑地の再整備について、飲食店などを備えた民間施設を新たに建てる計画が当初予定していた7月に間に合わず、運営開始の見通しも立っていないことが9日までの取材で分かった。一部住民が景観悪化や騒音、ごみ増加などを懸念して再整備に反対し、了承を得られていないため。一方で、用宗町内会は地域活性化を期待して推進の立場で、地元も割れている。市と事業者は住民の声を踏まえ、計画の見直しなど解決策を模索する。



整備から40年が経過し、老朽化が進む用宗緑地＝6月上旬、静岡市駿河区

一部住民 騒音など懸念し反対

静岡市、計画見直し着手

用宗緑地は用宗海岸沿い東西600㍍に広がり、地元住民のほか、海水浴客、観光客らの憩いの場になっている。2023年度には9万4800人が利用した。ただ、整備から40年が経過して園路やトイレなどの老朽化が進む。

市は民間に収益施設の設置を認め、収益の一部を公園の維持管理に充てるパークPFI制度を活用した再整備を、24年度から本格化させた。事業者の公募に先立ち、2回の住民説明会と利用者アンケートから①日陰で休憩できる施設②園路改修や照明設備の新設③飲食店など民間施設―を条件に事業者から再整備案を募集した。

事業者の当初の提案は、1階に飲食店、2階に宿泊機能を持つ新施設を整備する計画だった。しかし、25年10月の住民説明会で公表されると、近隣住民から「海が見えなくなる」「宿泊客による騒音が心配」などの反対が噴出。事業に反対する前田英雄さん(68)は「静かで落ち着いた環境が魅力だが、交通量やごみの増加で生活環境が悪化する」と懸念する。約540人分の署名を集め、景観に支障がない建築物にすることなどを求める要望書を市に提出した。

こうした状況を踏まえ、市と事業者は再整備計画の見直しに着手。5月に4回目の住民説明会を開き、宿泊機能の取りやめ▽海の眺望に配慮し、施設を東側の土手付近に移動する―といった変更案を示したが、依然として了承は得られていない。事業者側は「反対住民の思いも理解でき、意見を踏まえて考えていきたい」と話す。

再整備に賛成する立場の用宗町内会の海野光弘会長は「用宗が活気づきより良いまちになるよう前向きに進めてほしい」と期待を込める。市緑地政策課は「安心安全な利用ができない状況を放置はできない。地元、事業者と意見交換しながら検討する」と述べた。

（政治部・中川琳）

〈メモ〉静岡市内では用宗緑地のほかに葵区の城北公園、清水区の清水船越堤公園でパークPFI制度を活用した整備が進められてきた。城北公園はスターバックスコーヒーの出店などを前提に2021年4月に市と事業者が基本協定を結んだが、一部住民が施設整備に伴う樹木の伐採に反対し、店側が出店を辞退するなど、事業が停滞。市は6月にカフェ施設の規模縮小などを盛り込んだ新整備計画を公表した。船越堤公園は24年4月に運営を開始している。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます

無断転載禁止

令和８年１１月定例会　島 直也 議員　総括質問資料

用宗緑地 再整備事業中止

静岡市 十分な住民理解得られず

静岡市が民間の資金やノウハウを活用する公募設置管理制度（パークPFI）で進めていた同市駿河区の用宗緑地の再整備について、地域住民の十分な理解を得られないことなどから市が事業の中止を決定したことが30日、市関係者などへの取材で分かった。整備から40年が経過して園路やトイレなどの老朽化が目立つ同緑地の再整備計画は、工事の具体的な設計を前に白紙となった。

再整備を巡っては、市が2025年9月に公募で事業者を決定し、同10月に基本協定を締結した。事業者の当初の計画では1階に飲食店、2階に宿泊機能を持つ収益施設を整備し、26年7月の運営開始を目標としていた。しかし、提示された計画案に対して一部の近隣住民から反対が噴出。市によると、その後の住民説明会でも十分な理解は得られず、市と事業者、用宗町内会が協議した結果、同9月に事業の中止を正式決定したという。

市は計画に伴う休憩施設の整備や園路改修、照明設備の整備などのため、25年度予算に国の交付金を含めた5千万円を計上し、26年度に繰り越していた。事業中止を国に報告し、予算の扱いを検討する。事業者は「基本協定は円満に解除した。住民の理解だけでなく、商業的事情や住民生活の現状など多くの要素を総合的に判断し、今はタイミングが合わないとの結論になった」と説明した。

用宗海岸沿い東西600㍍に広がる用宗緑地は地域住民のほか、海水浴客、観光客らの憩いの場になっており、23年度は9万480人が利用した。地域活性化を期待し、計画に賛成の立場だった用宗町内会の海野光弘会長は「今回の計画はなくなったが、公園の再整備から市の関わりがなくなるわけではない。これまでの意見も踏まえた再整備を検討してもらえたら」と話した。

（政治部・塩谷将広）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます

無断転載禁止

令和８年１１月定例会　島 直也 議員　総括質問資料

用宗緑地の再整備 「当面予定はない」

難波市長は公募設置管理制度（パークＰＦＩ）を活用した用宗緑地（静岡市駿河区）の再整備事業の中止決定について「大変残念なことだ」と述べた。今後については「白紙」とし、「当面整備する予定はない」と明言した。

同事業では事業者と基本協定締結後、工事の具体的な設計を前に近隣住民から反対が噴出した。難波市長は、市が近隣住民と丁寧に意見交換をしてきたとの認識を示し、「近隣の住環境への影響が大きな争点だったと思う。それが深刻だということ。受け止めないといけない」とした。一方で「実際に整備する状況になってから問題が顕在化した経緯は分析し、次に生かす必要がある」と述べた。

用宗緑地は整備から40年が経過し、設備の老朽化が進んでいる。難波市長は「地域の方々が反対し、整備をしない状態になったことはしっかりと受け止める。計画をゼロから練り直し、地域の意見を聞いて行いたいと思うので、相当な時間がかかる」との認識を示した。

静岡新聞

©静岡新聞社　無断複製転載を禁じます